

授業科目名： 看護倫理	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 水戸優子
			担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>倫理とは何かという基本的な概念を理解し、なぜ、医療において倫理が注目されるのか、臨床における倫理的な課題はどのようなものがあるか、基本的な知識を理解する。</p> <p>臨床実践の場における倫理的課題を理解し、看護専門職として、学習した知識をもとに解決の方向性や、臨床実践における対象者や看護者の支援のあり方を考察することのできる能力を養う。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本講義は、看護専門職としての倫理的課題を理解し、CNS、看護管理者、看護実践者、養護教育者としての活動の基盤にある倫理、倫理的課題および倫理調整の実際について多面的に学習する。</p> <p>総論として、看護専門職としての倫理、倫理原則、インフォームド・コンセントとセカンドオピニオン、研究倫理、生命の始期・終期、養護・教育にかかわる倫理的な課題、法的問題と倫理などの基本的な概念や知識について教授する。</p> <p>各論では、受講生が主体となり、受講生が実践の中で感じる倫理的な葛藤に関連する事例などを用いて議論し、自らが臨床実践の中で倫理的意志決定を支援するための能力を養う。</p> <p>事前学習として、看護倫理に関する文献を見ておくことと、近年の医療を巡る倫理的諸問題に関する記事を新聞等から入手しておく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：本講義の概要とその特徴</p> <p>第2回：専門職者による倫理的意志決定</p> <p>第3回：インフォームド・コンセントの概念</p> <p>第4回：倫理的意志決定</p> <p>第5回：治療・研究における倫理</p> <p>第6回：様々な倫理的な課題</p> <p>第7回：看護実践における倫理</p> <p>第8回：看護実践における倫理</p> <p>第9回：看護研究を行う研究者の責任ある行動とは</p> <p>第10回：看護研究を行う研究者の責任ある行動とは</p>			

第11回：看護実践における倫理

第12回：生殖医療とは(担当：水戸優子、GS小笹由香)

第13回：生殖医療における倫理的課題(担当：水戸優子、GS小笹由香)

第14回：高齢者看護における倫理的課題

第15回：終末期ケアにおける倫理的課題

テキスト

なし

参考書・参考資料等

1) Sara T. Fry, Megan - Jane Johnstone (片田 範子他 訳) ; 看護実践の倫理—倫理的意
思決定のためのガイド (第3版) , 日本看護協会出版会, 2010. 2) Tom L. . Beauchamp, Ja
mes F. Chidress (永安幸正他訳) : 生命医学倫理、成文堂、1997. 3) 米国科学アカデミ
ー編, 池内了訳: 科学者をめざす君たちへ第3版, 化学同人, 2010.

学生に対する評価

評価は、授業への参加度(20%)、グループ活動でのリーダーシップ・メンバーシップ(20%)、課題レポート等(60%)によって総合的に行う。

参加度・グループ活動評価基準：課題の準備性、積極性、協調性、アサーティブ力

課題レポート評価基準：テーマ性、論理・一貫性、今後の発展性、レポート体裁

授業科目名： 看護教育学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：宮芝智子 担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標 教員・専門看護師などの教育的機能を発揮する役割を担う看護職者が、教育・実践領域において系統的な教育活動を展開するために必要な基礎的知識・技術を修得する。また、看護基礎・継続教育に関する課題を検討し、問題解決に向けた方法を理解する。			
授業の概要 教員・専門看護師・教育担当者などの教育的機能を発揮する役割を担う看護職者が、教育・実践領域において系統的な教育活動を展開するために、基盤となる教育学および看護教育学の基礎理論を学習し、実際の教育活動展開に向けた自己の課題を見出す。また、看護教育制度の歴史的変遷および看護基礎教育・看護継続教育の現状を学習し、質の高い教育活動展開に向けた課題および課題克服の方向性を見出す。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：看護基礎教育・継続教育の現状と課題1 第3回：看護基礎教育・継続教育の現状と課題2 第4回：成人学習理論と看護学教育1 第5回：成人学習理論と看護学教育2 第6回：成人学習理論と看護学教育3 第7回：教育目標の設定と教育評価1（タキノミー） 第8回：教育目標の設定と教育評価2（講義・演習） 第9回：教育目標の設定と教育評価3（実習） 第10回：看護職者とキャリア・ディベロップメント1 第11回：看護職者とキャリア・ディベロップメント2 第12回：看護基礎教育・継続教育への理論の統合1 第13回：看護基礎教育・継続教育への理論の統合2 第14回：看護基礎教育・継続教育への理論の統合3 第15回：まとめ			
テキスト なし			
参考書・参考資料等			

1. Knowls, M. A. : 堀薫夫他監訳 : 成人教育の現代的実践, ペダゴジーからアンドラゴジーへ, 鳳書房, 2002.

2. 杉森みどり他 : 看護教育学第7版, 医学書院, 2021.

学生に対する評価

【評価種別】

- ①理論を活用した自己の教育実践の分析と評価に関するプレゼンテーション内容 (70%)
- ②討議への参加状況 (30%)

【評価基準】

- ・授業終了時の達成課題 (到達目標) 1～13を①②の評価基準とする。

授業科目名： 看護教育学演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 宮芝智子
			担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>教育学および看護教育学の理論を適用して、看護基礎教育あるいは看護継続教育に関するカリキュラムを分析し、授業を展開するために必要な知識、技術を修得する。また、看護学教育に関する海外の研究論文を探索、批評し、看護教育学発展のための課題を考察する。</p>			
<p>授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護基礎教育あるいは看護継続教育に関して、カリキュラムを分析し、模擬授業を展開することを通して、それらに必要な基礎的知識・技術を学習する。 ・関心のある看護学教育に関する事象について、海外の研究論文を探索、精読、批評し、プレゼンテーションと討議を通して、自己の修士論文への示唆を得ると共に看護教育学発展のための課題を考察する。 			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：教育カリキュラムの分析と編成1</p> <p>第3回：教育カリキュラムの分析と編成2</p> <p>第4回：教育カリキュラムの分析と編成3</p> <p>第5回：教育カリキュラムの分析と編成4</p> <p>第6回：教育カリキュラムの分析と編成5</p> <p>第7回：教育カリキュラムの分析と編成6</p> <p>第8回：教育カリキュラムの分析と編成7</p> <p>第9回：教育カリキュラムの分析と編成8</p> <p>第10回：授業の実施1</p> <p>第11回：授業の実施2</p> <p>第12回：授業の実施3</p> <p>第13回：授業の実施4</p> <p>第14回：わかりやすい発表の技術1</p> <p>第15回：わかりやすい発表の技術2</p> <p>第16回：海外研究論文の精読と批評1</p> <p>第17回：海外研究論文の精読と批評2</p>			

第18回：海外研究論文の精読と批評3
 第19回：海外研究論文の精読と批評4
 第20回：海外研究論文の精読と批評5
 第21回：海外研究論文の精読と批評6
 第22回：海外研究論文の精読と批評7
 第23回：海外研究論文の精読と批評8
 第24回：海外研究論文の精読と批評9
 第25回：海外研究論文の精読と批評10
 第26回：海外研究論文の精読と批評11
 第27回：海外研究論文の精読と批評12
 第28回：海外研究論文の精読と批評13
 第29回：海外研究論文の精読と批評14
 第30回：まとめ

テキスト

なし

参考書・参考資料等

1. 杉森みど里他：看護教育学第7版，医学書院，2021.
2. 舟島なをみ監修：看護学教育における授業展開-質の高い講義・演習・実習の実現に向けて，第2版 医学書院，2020.

学生に対する評価

- ①教育カリキュラムの分析と編成および授業実施に関する資料・発表・討議内容（50%）
- ②海外研究論文の精読と批評に関する資料・発表・討議内容（50%）

【評価基準】

- ・授業終了時の達成課題（到達目標）1、2、4を①の評価基準とする。
- ・授業終了時の達成課題（到達目標）3、4を②の評価基準とする。

授業科目名： 小児看護学特論 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 川名るり
			担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>小児看護領域における対象理解と援助の基盤となる理論・概念について、わが国の文化や時代背景を踏まえ、子どもと家族の理解および健康を増進するための諸理論を理解する。さらに、子どもと家族を取り巻く社会や医療の現状と課題を明らかにし、小児看護実践における理論および概念を適用する可能性や課題を探究する。また、子どもの成長発達および家族の理解や援助にかかわる理論的枠組みを活用し、看護実践との関連から対象を理解する分析能力と論理的思考力の基礎を養う。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>子どもを取り巻く社会や医療の現状と課題・子どもの生活環境を理解するとともに、子どもの成長発達、家族発達に関する諸理論および概念・モデルについて解説する。取り上げる理論・概念については、書籍や論文を用いて、子どもと家族の発達理論や相互作用モデルなどの枠組みを活用して現象を把握し、その適用と課題や限界について学修する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：小児に関連した理論・概念の歴史と意義</p> <p>第2回：社会・医療の変遷から子どもと家族を取り巻く現状と課題①</p> <p>第3回：社会・医療の変遷から子どもと家族を取り巻く現状と課題②</p> <p>第4回：成長発達を遂げる子どもの理解に関する理論①</p> <p>第5回：成長発達を遂げる子どもの理解に関する理論②</p> <p>第6回：乳幼児の成長発達の理解に関する理論①-子どもと母親（他者）との関係形成の理解と援助にむけた理論</p> <p>第7回：乳幼児の成長発達の理解に関する理論②-子どもと母親（他者）との関係形成の理解と援助にむけた理論</p> <p>第8回：子どもとその家族の理解とその援助のための理論・概念</p> <p>第9回：ストレス状況下にある子どもとその家族への看護援助に向けた理論</p> <p>第10回：子どもの療養生活援助に向けた理論</p> <p>第11回：子どもとその家族を取り巻くネットワークの理解と援助に向けた理論</p> <p>第12回：幼児期・学童期の成長発達の理解に関する理論①-子どもの強みを支え育む援助に向けた概念</p>			

第13回：幼児期・学童期の成長発達に関する理論②-子どもの自己効力感を支え育む援助に向けた理論-

第14回：学童・思春期の成長発達に関する理論-子どものアイデンティティ・自己概念の形成を支える理論-

第15回：小児看護実践における理論・概念活用の意義と課題

テキスト

別途提示する。

参考書・参考資料等

講義で提示する

学生に対する評価

到達目標と対応して構成された各講義への取り組み（事前学習、ディスカッションへの参加）の評価（40%）、各講義でのプレゼンテーション（10%）、「子どもと家族を援助するための理論・概念を活用した事例検討を、具体例を挙げて論述できる」ことを評価基準としたレポート（50%）により、総合的に評価する。

授業科目名： 小児看護学演習 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 川名るり 西名諒平
			担当形態： 複数
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標 健康課題をもつ子どもと家族に対して、ケアのエビデンスや院生の実践経験を活用し、看護実践ケアモデルを構築する。さらにケアモデルを用いた事例分析、検討を通じて、看護援助を実践する能力を習得する。			
授業の概要 健康課題を持つ子どもと家族へのケアのエビデンスや院生の実践経験を活用し、看護実践ケアモデルを構築する。ケアモデルの構築においては、子どもの苦痛緩和、子ども・家族のニーズの充足に向けた看護援助、多職種との連携の観点も包含し検討する。さらに構築したケアモデルを用い、事例分析、検討を行い、看護実践を発展的に考察する。			
授業計画 第1回：健康課題をもつ子どもと家族の課題と問題（担当：川名るり 西名諒平） 第2回：健康課題をもつ子どもと家族の課題と問題（担当：川名るり 西名諒平） 第3回：健康課題を持つ子どもと家族への看護実践ケアモデル（担当：川名るり 西名諒平） 第4回：健康課題を持つ子どもと家族への看護実践ケアモデル（担当：川名るり 西名諒平） 第5回：健康課題を持つ子どもの苦痛に関する文献検討、および援助の検討① （担当：川名るり 西名諒平） 第6回：健康課題を持つ子どもの苦痛に関する文献検討、および援助の検討① （担当：川名るり 西名諒平） 第7回：健康課題を持つ子どもの苦痛に関する文献検討、および援助の検討② （担当：川名るり 西名諒平） 第8回：健康課題を持つ子どもの苦痛に関する文献検討、および援助の検討② （担当：川名るり 西名諒平） 第9回：健康課題を持つ子どもの苦痛に関する文献検討、および援助の検討③ （担当：川名るり 西名諒平） 第10回：健康課題を持つ子どもの苦痛に関する文献検討、および援助の検討③ （担当：川名るり 西名諒平） 第11回：健康課題をもつ子どもと家族を取り巻く療養環境に関する文献検討および援助の検討① （担当：川名るり 西名諒平）			

- 第12回：健康課題をもつ子どもと家族を取り巻く療養環境に関する文献検討および援助の検討①
(担当：川名るり 西名諒平)
- 第13回：健康課題をもつ子どもと家族を取り巻く療養環境に関する文献検討および援助の検討②
(担当：川名るり 西名諒平)
- 第14回：健康課題をもつ子どもと家族を取り巻く療養環境に関する文献検討および援助の検討②
(担当：川名るり 西名諒平)
- 第15回：健康課題をもつ子どもと家族を取り巻く療養環境に関する文献検討および援助の検討③
(担当：川名るり 西名諒平)
- 第16回：健康課題をもつ子どもと家族を取り巻く療養環境に関する文献検討および援助の検討③
(担当：川名るり 西名諒平)
- 第17回：健康課題を持つ子どもへの看護実践における多職種連携に関する文献検討および援助の検討 (担当：川名るり 西名諒平)
- 第18回：健康課題を持つ子どもへの看護実践における多職種連携に関する文献検討および援助の検討 (担当：川名るり 西名諒平)
- 第19回：健康課題を持つ子どもへの看護実践における多職種連携に関する文献検討および援助の検討 (担当：川名るり 西名諒平)
- 第20回：健康課題を持つ子どもへの看護実践における多職種連携に関する文献検討および援助の検討 (担当：川名るり 西名諒平)
- 第21回：健康課題をもつ子どもと家族へのケアモデルの構築① (担当：川名るり 西名諒平)
- 第22回：健康課題をもつ子どもと家族へのケアモデルの構築① (担当：川名るり 西名諒平)
- 第23回：健康課題をもつ子どもと家族へのケアモデルの構築② (担当：川名るり 西名諒平)
- 第24回：健康課題をもつ子どもと家族へのケアモデルの構築② (担当：川名るり 西名諒平)
- 第25回：健康課題をもつ子どもと家族へのケアモデルを用いた事例の分析・検討①
(担当：川名るり 西名諒平)
- 第26回：健康課題をもつ子どもと家族へのケアモデルを用いた事例の分析・検討①
(担当：川名るり 西名諒平)
- 第27回：健康課題をもつ子どもと家族へのケアモデルを用いた事例の分析・検討②
(担当：川名るり 西名諒平)
- 第28回：健康課題をもつ子どもと家族へのケアモデルを用いた事例の分析・検討②
(担当：川名るり 西名諒平)
- 第29回：全体のまとめ (担当：川名るり 西名諒平)
- 第30回：全体のまとめ (担当：川名るり 西名諒平)

テキスト 指定しない。
参考書・参考資料等 演習で提示する
学生に対する評価 到達目標と対応して構成された各演習への取り組み（事前学習、ディスカッションへの参加、演習への参加）の評価（50%）、各演習でのプレゼンテーションの評価（50%）により、総合的に評価する。

授業科目名： 精神保健看護学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 榎恵子 森本淳子
			担当形態： オムニバス
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>精神保健医療看護領域における、あらゆる対象の特徴や援助の場、援助者自身の置かれる状況について人間の心理、感情、行動、対人関係に関連した諸理論を理解する。精神科看護の基本となる精神医療についての歴史的、法的観点からの理解、精神科医療・看護の現状と今後の課題について考える。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>保健医療看護領域における対象理解、ケア現場に生じている現象の理解について、主に精神力動的視点から講義および検討を行う。対象理解は、対象と周りの人間関係、それを巻き込む病院や地域、社会との関連から進める必要があるという、システム的な視点も重視する。臨床現場で生じている状況を精神看護の視点から深く読み解き、個別性を重視した看護や看護研究に反映できるように、日頃の看護場面を共に共有しあいながら現実的に検討する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：科目のガイダンス（担当：榎恵子）</p> <p>第2回：対象の心理、症状、社会、人間関係の理解1（担当：榎恵子）</p> <p>第3回：対象の心理、症状、社会、人間関係の理解2（担当：森本淳子）</p> <p>第4回：対象の心理、症状、社会、人間関係の理解3（担当：榎恵子）</p> <p>第5回：対象の心理、症状、社会、人間関係の理解4（担当：榎恵子）</p> <p>第6回：対象の心理、症状、社会、人間関係の理解5（担当：榎恵子）</p> <p>第7回：人間関係、関係のパターンの理解1（担当：榎恵子）</p> <p>第8回：人間関係、関係のパターンの理解2（担当：榎恵子）</p> <p>第9回：人間関係、関係のパターンの理解3（担当：榎恵子）</p> <p>第10回：さまざまな対象と援助法1（担当：榎恵子、森本淳子）</p> <p>第11回：さまざまな対象と援助法2（担当：榎恵子）</p> <p>第12回：対象となる家族の理解（担当：榎恵子）</p> <p>第13回：ケア実践者と感情労働（担当：榎恵子）</p> <p>第14回：精神保健医療福祉の歴史と現状1（担当：森本淳子 GS）</p> <p>第15回：精神保健医療福祉の歴史と現状2（担当：榎恵子）</p>			

テキスト

指定しない。

参考書・参考資料等

適宜紹介する。

学生に対する評価

- ・レポート 精神保健上の問題を抱える対象への関わりの実践事例を取り上げ、心理、精神症状、社会、人間関係の視点から分析し、援助の実際について記述できることを評価基準とする。
- ・プレゼンテーション 毎回の講義内容に対して、各自の実践や研究的な問題意識に引き付けたプレゼンテーションができることを評価基準とする。下記2回については、焦点化し提示した。
 1. 第6回講義 心と身体に関連を理解した上での看護について、精神保健看護の視点から検討し提示できることを評価基準とする。
 2. 第8回講義 精神科臨床における当事者の家族の看護問題を事例紹介として提示できることを評価基準とする。

授業科目名： 精神保健看護学演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 榑恵子 森本淳子
			担当形態： オムニバス
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>精神保健看護学における、対象、治療環境、援助者、援助的人間関係、精神医療の現場についての知識をもとに、臨床看護体験に基づいた問題意識を持ち、個人およびグループを対象にして、その場に何が生じているのか、どのように解決していくのかについて体験を通しながら理解する。文献および資料の購読、フィールドへの参加、グループ討議によって、精神保健看護学研究分野での課題を探索し、自己が取り組む研究課題を明らかにする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>精神保健看護学特論で学んだ知識を基盤として、研究的視点への展開を目指した、専門的知識を学び、実際の演習を通して研究手法を修得できるように授業を構成している。参加観察法やインタビュー法は研究者自身を通して実施されるため、実際に体験してみること、デブリーフィングによって他者からのフィードバックやサポートを得ること、実際にデータを解釈してみることを体験的に学べるようにしている。後半では、データの解釈に重要な概念や理論を積み重ねて学んだ上で、各自が提示した研究疑問を検討する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：科目のガイダンス（担当：榑恵子）</p> <p>第2回：精神看護学領域における参加観察法（担当：榑恵子）</p> <p>第3回：精神看護学領域におけるインタビュー法(担当：森本淳子)</p> <p>第4回：精神看護学領域における参加観察法の実際1（担当：榑恵子）</p> <p>第5回：精神看護学領域における参加観察法の実際2（担当：榑恵子）</p> <p>第6回：精神看護学領域における参加観察法の実際3（担当：榑恵子）</p> <p>第7回：精神看護学領域における参加観察法の実際4（担当：榑恵子）</p> <p>第8回：精神看護学領域における参加観察法の実際5(担当：榑恵子、森本淳子)</p> <p>第9回：精神看護学領域における参加観察法の実際6（担当：榑恵子）</p> <p>第10回：精神看護学領域におけるインタビュー法の実際(担当：榑恵子)</p> <p>第11回：精神看護学領域におけるインタビュー法の実際2（担当：榑恵子）</p> <p>第12回：精神看護学領域におけるインタビュー法の実際3(担当：榑恵子)</p> <p>第13回：精神看護学領域におけるインタビュー法の実際4（担当：榑恵子、森本淳子）</p> <p>第14回：精神看護学領域におけるインタビュー法の実際5(担当：森本淳子)</p>			

- 第15回：自己理解、他者理解の方法1（担当：榎恵子、森本淳子）
- 第16回：自己理解、他者理解の方法2（担当：榎恵子、森本淳子）
- 第17回：精神保健医療に関連した組織、グループの理解1（担当：榎恵子、森本淳子、GS）
- 第18回：精神保健医療に関連した組織、グループの理解2（担当：榎恵子、森本淳子、GS）
- 第19回：精神保健医療に関連した組織、グループの理解3（担当：榎恵子）
- 第20回：精神保健医療に関連した組織、グループの理解4（担当：榎恵子）
- 第21回：精神保健医療に関連した組織、グループの理解5（担当：榎恵子）
- 第22回：精神保健医療に関連した組織、グループの理解6（担当：榎恵子）
- 第23回：精神保健医療に関連した組織、グループの理解7（担当：榎恵子、GS）
- 第24回：精神保健医療に関連した組織、グループの理解8（担当：榎恵子、GS）
- 第25回：地域精神保健福祉に関連した地区活動の理解1（担当：榎恵子、GS）
- 第26回：地域精神保健福祉に関連した地区活動の理解2（担当：榎恵子、GS）
- 第27回：精神保健医療看護分野における研究テーマと研究疑問1（担当：榎恵子）
- 第28回：精神保健医療看護分野における研究テーマと研究疑問2（担当：榎恵子）
- 第29回：精神保健医療看護分野における研究テーマと研究疑問3（担当：榎恵子、森本淳子）
- 第30回：精神保健医療看護分野における研究テーマと研究疑問4（担当：榎恵子、森本淳子）

テキスト

アントン・オブホルツァー他 組織のストレスとコンサルテーション-対人援助サービスと職場の無意識 金剛出版

参考書・参考資料等

適宜、紹介する。

学生に対する評価

レポートおよび、プレゼンテーションにより評価する。

・レポート

1. 参加観察法に関するフィールドワーク報告を場の状況及び状況の分析に分けて丁寧に記述できることを評価基準とする。

2. 精神保健看護学分野における各自の研究疑問を、根拠を持って明瞭に記述できることを評価基準とする。

授業科目名： 地域看護学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 臺有桂、高橋佐和子 中山直子
			担当形態： オムニバス
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>地域看護学の基本となる理念・理論の理解を基盤に、活動の対象、場の特性に応じたアプローチ方法の枠組みを理解し、地域住民や療養者の健康課題の発見、および解決やQOLの向上、ならびにそれらを支える安全な地域社会の構築に向けた地域看護への洞察を深める。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>我が国では、人口構造や疾病構造の変化、健康格差が進展しており、看護の対象となる人々の生活や価値観は多様化・複雑化を増してきている。このような中、人々の生活の質の向上に向けた地域包括ケアシステムの構築と、医療を含む社会保障改革が喫緊の課題である。看護職には、地域包括ケアシステムを牽引する役割が期待され、多職種との連携や人々・コミュニティと協働できる能力が不可欠である。また、その働く場は、今後ますます地域に広がることから、人々の多様な生活の場での創造的な看護実践力、研究的視点を持ちシステム化していく能力が不可欠である。</p> <p>本科目では、社会の変化に応じ、ヘルスプロモーションの理念を基盤として展開される地域看護学の特質を理解する。多様な場で生活する、さまざまな健康レベルにある人々の生活を継続的・包括的にケアするために、人々やコミュニティと協働しながら活動を展開するためのアセスメント、個別・家族への支援から施策化・システム化に向けた看護実践について、研究的に探究する。さらに、健康危機管理や健康・地域格差など、今日的な地域看護学上の課題発見・課題解決について分析・考察をする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：科目ガイダンス</p> <p>地域看護学の定義(担当：臺有佳、中山直子、高橋佐和子)</p> <p>第2回：地域看護実践の基盤となる理念・理論_1(担当：臺有佳、中山直子)</p> <p>第3回：地域看護実践の基盤となる理念・理論_2(担当：臺有佳、中山直子)</p> <p>第4回：地域看護の対象と実践モデル(担当：臺 有桂)</p> <p>第5回：地域看護実践における対象のアセスメント_1(担当：臺有桂)</p> <p>第6回：地域看護実践における対象のアセスメント_2(担当：中山直子)</p> <p>第7回：地域看護における支援方法_1(担当：臺有佳、中山直子)</p>			

第8回：地域看護実践における支援方法_2(担当：臺有佳、中山直子)

第9回：地域看護実践における支援方法_3(担当：臺有桂)

第10回：地域看護実践における支援方法_4(担当：臺有桂)

第11回：地域看護実践における支援方法_5(担当：臺有桂)

第12回：地域看護学における今日的な課題_1(担当：臺有桂)

第13回：地域看護学における今日的な課題_2(担当：高橋佐和子)

第14回：地域看護学における今日的な課題_3(担当：臺有桂)

第15回：地域看護実践の倫理(担当：臺有桂)

テキスト

指定なし

参考書・参考資料等

随時提示する

学生に対する評価

- ・授業への参画 【30%】 (受講態度、事前学習状況、ディスカッションへの参画度)
- ・プレゼンテーション 【30%】 (テーマとの整合性、論理性、資料などのわかりやすさ、時間配分)
- ・レポート 【20%】
(提示された課題に対する知見の整理ができ、その内容に基づき、考察ができる)

授業科目名： 地域看護学演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 臺有佳 高橋佐和子 中山直子
			担当形態： オムニバス
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>文献および資料の講読、フィールドへの参加、グループ討議およびプレゼンテーションによって、地域看護学研究分野での課題を同定・探索し、その課題解決に向けた方略を検討することにより、自己が取り組む研究課題を明らかにする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>我が国では、人口構造や疾病構造の変化、健康格差が進展しており、看護の対象となる人々の生活や価値観は多様化・複雑化を増してきている。このような中、人々の生活の質の向上に向けた地域包括ケアシステムの構築と、医療を含む社会保障改革が喫緊の課題である。看護職には、地域包括ケアシステムを牽引する役割が期待され、多職種との連携や人々・コミュニティと協働できる能力が不可欠である。また、その働く場は、今後ますます地域に広がることから、人々の多様な生活の場での創造的な看護実践力、研究的視点を持ちシステム化していく能力が不可欠である。</p> <p>本科目では、地域看護学における取り組むべき研究課題を解決する枠組みについて多面的かつ俯瞰的な視野で精整する。さらに、フィールドワークを通じて研究方法を精緻化し、地域看護の関連フィールドにおいて実施可能な研究方法を明示する。これらにより、地域住民や療養者に対する健康支援に貢献可能な成果を得るための課題発見、解決に向けた研究推進能力を高める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：科目のガイダンス(担当：臺有佳、中山直子、高橋佐和子)</p> <p>第2回：量的研究のクリティーク方法(担当：臺有佳、中山直子、高橋佐和子)</p> <p>第3回：地域看護実践に関する国内外の文献検討（量的研究）_1 (担当：臺有佳、中山直子、高橋佐和子)</p> <p>第4回：地域看護実践に関する国内外の文献検討（量的研究）_2 (担当：臺有佳、中山直子、高橋佐和子)</p> <p>第5回：地域看護実践に関する国内外の文献クリティーク（量的研究）_1 (担当：臺有佳、中山直子、高橋佐和子)</p> <p>第6回：地域看護実践に関する国内外の文献クリティーク（量的研究）_2</p>			

(担当：臺有佳、中山直子、高橋佐和子)

第7回：質的研究のクリティーク方法(担当：臺有佳)

第8回：地域看護実践に関する国内外の文献検討（質的研究）_1(担当：臺有佳)

第9回：地域看護実践に関する国内外の文献検討（質的研究）_2(担当：臺有佳)

第10回：地域看護実践に関する国内外の文献クリティーク（質的研究）_1(担当：臺有佳)

第11回：地域看護実践に関する国内外の文献クリティーク（質的研究）_2(担当：臺有佳)

第12回：地域看護学におけるフィールドワークの手法(担当：臺有佳)

第13回：フィールドワーク計画_1(担当：臺有佳)

第14回：フィールドワーク計画_2(担当：臺有佳)

第15回：フィールドワーク_1(担当：臺有佳)

第16回：フィールドワーク_2(担当：臺有佳)

第17回：フィールドワーク_3(担当：臺有佳)

第18回：フィールドワーク_4(担当：臺有佳)

第19回：フィールドワーク_5(担当：臺有佳)

第20回：アセスメントツール_1(担当：臺有佳)

第21回：アセスメントツール_2(担当：臺有佳)

第22回：対象の理解_1(担当：臺有佳)

第23回：対象の理解_2(担当：臺有佳)

第24回：包括的なアプローチ方法_1(担当：臺有佳)

第25回：包括的なアプローチ方法_2(担当：臺有佳)

第26回：地域看護実践における倫理的ジレンマ(担当：臺有佳)

第27回：関心のある課題の社会的背景と研究的な問いの抽出_1

(担当：臺有佳、中山直子、高橋佐和子)

第28回：関心のある課題の社会的背景と研究的な問いの抽出_2

(担当：臺有佳、中山直子、高橋佐和子)

第29回：関心のある課題の社会的背景と研究的な問いの抽出_3

(担当：臺有佳、中山直子、高橋佐和子)

第30回：フィールドワーク報告会

(担当：臺有佳、中山直子、高橋佐和子)

テキスト

指定なし

参考書・参考資料等

随時提示する

学生に対する評価

授業時の取り組み状況 【10%】

授業科目名： 学校看護学特論	教員の免許状取得のため の 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高橋佐和子 臺有桂 中山直子
			担当形態： オムニバス
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学校看護においては、学校教育の円滑な実施に資すること、および生涯健康を保持増進するためのセルフケア力の獲得など、教育を目的とした看護を展開する必要がある。学校教育および学校組織の特性や学校における保健管理の理解を通し、教育が内包される学校における看護の意義や役割を学習し、個に応じたサービスを創造する力を培うことを目的とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学校保健安全法やインクルーシブ教育システム等、疾病・障害等を持つ児童生徒の保健管理を行う学校看護の基本となる法令や理念について講義を通して学び、学校看護の先行研究の概観やディスカッションを交えて、それぞれの課題や背景に応じた看護実践を考察する。</p> <p>アクティブラーニング：事前学習型授業、対話・議論型授業、プレゼンテーション</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：学校保健に関する法令（担当：高橋佐和子）</p> <p>第2回：基本理念及び方針（担当：高橋佐和子）</p> <p>第3回：学校教育行政（担当：高橋佐和子）</p> <p>第4回：学校感染症とその予防（担当：中山直子）</p> <p>第5回：学校における健康診断（担当：高橋佐和子）</p> <p>第6回：慢性疾患を持つ児童生徒（担当：臺有桂）</p> <p>第7回：事故・傷害への対応（担当：高橋佐和子）</p> <p>第8回：特別支援教育（担当：高橋佐和子）</p> <p>第9回：学校における医療的ケア（担当：高橋佐和子）</p> <p>第10回：児童生徒のヘルスアセスメント（担当：臺有桂）</p> <p>第11回：児童生徒のメンタルヘルス（担当：高橋佐和子）</p> <p>第12回：保護者・教員との情報共有（担当：高橋佐和子）</p> <p>第13回：学校と医療の教育連携（担当：中山直子）</p> <p>第14回：海外の学校看護（担当：高橋佐和子）</p> <p>第15回：まとめ 学校看護の課題（担当：高橋佐和子）</p>			

テキスト

指定しない。

参考書・参考資料等

適宜紹介する。

学生に対する評価

- ・ 授業の参加状況（発言などの受講態度、事前学習状況） 30%
- ・ プレゼンテーション（テーマとの整合性、論理性、資料などの伝わりやすさ、時間配分）
30%
- ・ 課題レポート（課題に対する先行研究の整理ができる、論理性のある考察ができる）
40%

授業科目名： 学校看護学演習	教員の免許状取得のため の 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高橋佐和子 臺有桂 中山直子
			担当形態： オムニバス
科 目	大学が独自に設定する		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
学校看護に関する文献及び資料の購読、事例検討、フィールドワークにより、研究課題を探索することを目的とする。			
授業の概要			
学校看護活動についての課題を考察し、解決のための研究方法を吟味する。さらに、フィールドワークにより、研究課題と研究方法を明確化する。これらにより、教育に視野に入れつつ、児童生徒の心身の健康を保持増進する学校看護の研究を推進できる基礎的な力を身につける。 アクティブラーニング：事前学習型授業、対話・議論型授業、プレゼンテーション			
授業計画			
第1回：学校看護の研究の意義（担当：高橋佐和子 臺有桂 中山直子）			
第2回：学校看護の活動のあり方（担当：高橋佐和子 臺有桂 中山直子）			
第3回：文献抄読と文献クリティーク（担当：高橋佐和子 臺有桂 中山直子）			
第4回：研究デザインの理解（担当：高橋佐和子 臺有桂 中山直子）			
第5回：質的研究の文献クリティーク1（担当：高橋佐和子 臺有桂 中山直子）			
第6回：質的研究の文献クリティーク2（担当：高橋佐和子 臺有桂 中山直子）			
第7回：量的研究の文献クリティーク1（担当：高橋佐和子 臺有桂 中山直子）			
第8回：量的研究の文献クリティーク2（担当：高橋佐和子 臺有桂 中山直子）			
第9回：海外文献のクリティーク1（担当：高橋佐和子 臺有桂 中山直子）			
第10回：海外文献のクリティーク2（担当：高橋佐和子 臺有桂 中山直子）			
第11回：研究対象の特徴と選定（担当：高橋佐和子 臺有桂 中山直子）			
第12回：データ収集の方法（担当：高橋佐和子 臺有桂 中山直子）			
第13回：量的データの分析1（担当：高橋佐和子 臺有桂 中山直子）			
第14回：質的データの分析2（担当：高橋佐和子 臺有桂 中山直子）			
第15回：フィールドワーク計画1（担当：高橋佐和子 臺有桂 中山直子）			
第16回：フィールドワーク計画2（担当：高橋佐和子 臺有桂 中山直子）			
第17回：フィールドワーク実施1（担当：高橋佐和子 臺有桂 中山直子）			
第18回：フィールドワーク実施2（担当：高橋佐和子 臺有桂 中山直子）			

第19回：フィールドワーク実施3（担当：高橋佐和子 臺有桂 中山直子）
 第20回：フィールドワーク実施4（担当：高橋佐和子 臺有桂 中山直子）
 第21回：フィールドワーク実施5（担当：高橋佐和子 臺有桂 中山直子）
 第22回：フィールドワーク実施6（担当：高橋佐和子 臺有桂 中山直子）
 第23回：フィールドワークの分析1（担当：高橋佐和子 臺有桂 中山直子）
 第24回：フィールドワークの分析2（担当：高橋佐和子 臺有桂 中山直子）
 第25回：フィールドワークまとめ1（担当：高橋佐和子 臺有桂 中山直子）
 第26回：フィールドワークまとめ1（担当：高橋佐和子 臺有桂 中山直子）
 第27回：研究計画書の作成1（担当：高橋佐和子 臺有桂 中山直子）
 第28回：研究計画の作成2（担当：高橋佐和子 臺有桂 中山直子）
 第29回：研究計画の作成3（担当：高橋佐和子 臺有桂 中山直子）
 第30回：研究計画の発表（担当：高橋佐和子 臺有桂 中山直子）

テキスト

指定しない。

参考書・参考資料等

適宜紹介する。

学生に対する評価

- ・ 授業時の取り組み状況（事前学習の状況、発言などの参加態度）10%
- ・ プレゼンテーション（テーマとの整合性、資料・スライドの伝わりやすさ、論理性、時間配分）30%
- ・ 課題レポート（研究課題の明確化、解決に向けた方法について説明できる）60%

授業科目名： 学校保健学特論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高橋佐和子 臺有桂 中山 直子
			担当形態： オムニバス
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>養護教諭の活動の教育的な意味や独自性や保健組織活動における実践等について先行研究から探求し、課題を明確にすることを通し、ヘルスプロモーションスクールを具現化できるマネジメント力を培うことを目的とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学校保健や養護教諭に関する理念、学校保健の課題や養護教諭の期待される役割、国内外の学校保健や養護実践の研究の動向を学び、目指すべき学校保健の方向性を明確にすることを通し、学校管理の視点から学校保健を推進できる研究力・実践力を身につける。</p> <p>アクティブラーニング：事前学習型授業、対話・議論型授業、プレゼンテーション</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：養護教諭の職務（担当：高橋佐和子）</p> <p>第2回：学校保健で育む生きる力（担当：高橋佐和子）</p> <p>第3回：養護教諭の実践の基礎理念1（担当：高橋佐和子）</p> <p>第4回：養護教諭の基礎理念2（担当：高橋佐和子）</p> <p>第5回：保健室経営（担当：高橋佐和子）</p> <p>第6回：養護教諭に求められる力1（担当：高橋佐和子）</p> <p>第7回：養護教諭に求められる力2（担当：高橋佐和子）</p> <p>第8回：学校保健委員会と組織づくり（担当：中山直子）</p> <p>第9回：学校における危機管理1（担当：高橋佐和子）</p> <p>第10回：学校における危機管理2（担当：臺有桂）</p> <p>第11回：教科学習と学校保健（担当：中山直子）</p> <p>第13回：インクルーシブ教育システムの構築のために（担当：臺有桂）</p> <p>第14回：海外における学校保健（担当：高橋 佐和子）</p> <p>第15回：まとめ（担当：高橋 佐和子）</p>			
<p>テキスト</p> <p>指定しない。</p>			

参考書・参考資料等

適宜紹介する。

学生に対する評価

- ・ 授業の参加状況（発言などの受講態度、事前学習状況） 30%
- ・ プレゼンテーション（テーマとの整合性、論理性、資料などの伝わりやすさ、時間配分） 30%
- ・ 課題レポート（課題に対する先行研究の整理ができる、論理性のある考察ができる） 40%

授業科目名： 人間栄養学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 倉貫(戸塚)早智 向井(山田)友花 山西倫太郎 村越智 樋口良子 片岡沙織 飯田綾香 中村丁次
			担当形態： オムニバス
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	栄養に係る教育に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標 人間栄養学の目的と意義、さらに実践方法の知識を習得することを目的とする授業に向けては参考資料等に目を通して準備をしておくのみ、講義内容に関して配布されたレジュメ等を中心に復習を行うこと			
授業の概要 保健、医療、福祉における人間栄養学の必要性と実践方法について講義する。 具体的な内容としては、我が国の栄養問題、食の安全性確保のための食品衛生管理、人間栄養学と農学（人間栄養学に関する農学分野からのアプローチ）や機能性食品等の課題や問題点（トクホや機能性食品）、SDGsと栄養、免疫と栄養、スポーツ栄養学の実践、栄養と食育に関して、8人の教員によるオムニバスで実施する。			
授業計画 第1回：人間栄養学の概要(担当：倉貫(戸塚)早智) 第2回：個別化栄養(担当：倉貫(戸塚)早智) 第3回：我が国の栄養問題(担当：中村丁次) 第4回：人間栄養学と栄養管理(担当：中村丁次) 第5回：栄養と安全な食事（1）(担当：向井(山田)友花) 第6回：栄養と安全な食事（2）(担当：向井(山田)友花) 第7回：人間栄養学と農学(担当：山西倫太郎) 第8回：機能性食品等の課題や問題点(担当：山西倫太郎) 第9回：SDGsと栄養（1）(担当：樋口良子) 第10回：SDGsと栄養（2）(担当：樋口良子) 第11回：栄養と免疫(担当：村越 智) 第12回：スポーツ栄養学の実践（1）(担当：片岡沙織) 第13回：スポーツ栄養学の基礎(担当：片岡沙織) 第14回：栄養と食育（1）(担当：飯田綾香)			

第15回：栄養と食育（2）（担当：飯田綾香）

テキスト

担当教員による配布資料など

参考書・参考資料等

特に指定しない

学生に対する評価

レポートの提出により評価

授業科目名： 臨床栄養学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 村越智 五味(福井)郁子 外山健二 深柄和彦
			担当形態： オムニバス
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	栄養に係る教育に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
医療・介護制度に基づいた栄養管理体制について、先進的に取り組んでいる病院・施設等を訪問し、実習を通して臨床栄養管理の具体的技術を習得する。			
授業の概要			
各種の病態下における栄養管理の基本的理論を習得し、特に高齢者・傷病者の陥りやすい低栄養に対する適正な栄養管理法について実践体系を構築し、理論展開を図る。			
授業計画			
第1回：栄養不良（担当：五味(福井)郁子）			
第2回：栄養管理と臨床アウトカム（担当：五味(福井)郁子）			
第3回：終末期の栄養管理（担当：五味(福井)郁子）			
第4回：栄養教育の理論と方法（担当：五味(福井)郁子）			
第5回：肥満と痩せにおける栄養管理（担当：村越 智）			
第6回：高血圧、循環器疾患、慢性腎臓病における栄養管理（担当：村越 智）			
第7回：代謝疾患における栄養管理（担当：村越 智）			
第8回：特殊病態における栄養管理（担当：村越 智）			
第9回：がんの栄養管理（担当：村越 智）			
第10回：経腸栄養療法総論（担当：外山健二）			
第11回：経腸栄養療法各論（担当：外山健二）			
第12回：経静脈栄養法（担当：村越 智）			
第13回：薬剤と栄養管理（担当：村越 智）			
第14回：急性期重症疾患の栄養管理（1）（担当：深柄和彦）			
第15回：急性期重症疾患の栄養管理（2）（担当：深柄和彦）			
テキスト			
担当教員による配布資料など			
参考書・参考資料等			
特に指定しない			
学生に対する評価			

授業参加状況50%、レポート50%

授業終了時の達成目標に示される事項を評価基準とする。

授業科目名： 臨床栄養学特論演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 五味(福井)郁子 村越智 樋口良子 柴田みち
			担当形態： オムニバス
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	栄養に係る教育に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
医療・介護制度に基づいた栄養管理体制について、先進的に取り組んでいる病院・施設等を訪問し、実習を通して臨床栄養管理の具体的技術を習得する。			
授業の概要			
<p>特定機能病院、急性期病院、回復期リハビリテーション病棟、介護保険施設、在宅等の臨床現場における栄養管理に参加し、各臨床フィールドにおける臨床栄養管理について理解する。</p> <p>食事の経口摂取不十分の症例・事例に対して病態を正しく理解し、他の専門職との協働で行われる栄養管理法の実際を臨床現場における演習を通して学ぶ。（柴田みち）</p> <p>臨床現場における実際の栄養管理の方法、体制、マネジメントについて見学・実習をふまえて、受講者の気づき、課題発見についてプレゼンテーションし、高度専門職に必要な知識・技術について討議する。（五味(福井)郁子）</p>			
授業計画			
第1回：特定機能病院における栄養管理（担当：柴田みち）			
第2回：特定機能病院における栄養管理（担当：柴田みち）			
第3回：特定機能病院における栄養管理（担当：柴田みち）			
第4回：特定機能病院における栄養管理（担当：柴田みち）			
第5回：特定機能病院における栄養管理（担当：柴田みち）			
第6回：特定機能病院における栄養管理（担当：柴田みち）			
第7回：特定機能病院における栄養管理（担当：柴田みち）			
第8回：特定機能病院における栄養管理（担当：柴田みち）			
第9回：特定機能病院における栄養管理（担当：柴田みち）			
第10回：特定機能病院における栄養管理（担当：柴田みち）			
第11回：急性期病院における栄養管理（担当：五味(福井)郁子 GS）			
第12回：急性期病院における栄養管理（担当：五味(福井)郁子 GS）			
第13回：急性期病院における栄養管理（担当：五味(福井)郁子 GS）			
第14回：急性期病院における栄養管理（担当：五味(福井)郁子 GS）			
第15回：急性期病院における栄養管理（担当：五味(福井)郁子 GS）			

- 第16回：回復期リハビリテーション病院における栄養管理（担当：五味(福井)郁子 GS）
- 第17回：回復期リハビリテーション病院における栄養管理（担当：五味(福井)郁子 GS）
- 第18回：回復期リハビリテーション病院における栄養管理（担当：五味(福井)郁子 GS）
- 第19回：在宅療養者の栄養管理（訪問栄養食事指導）（担当：五味(福井)郁子 GS）
- 第20回：在宅療養者の栄養管理（訪問栄養食事指導）（担当：五味(福井)郁子 GS）
- 第21回：介護保険施設における栄養管理（担当：五味(福井)郁子 GS）
- 第22回：介護保険施設における栄養管理（担当：五味(福井)郁子 GS）
- 第23回：介護保険施設における栄養管理（担当：五味(福井)郁子 GS）
- 第24回：介護保険施設における栄養管理（担当：五味(福井)郁子 GS）
- 第25回：保健医療福祉分野における栄養管理（担当：樋口良子）
- 第26回：NST介入症例の検討（担当：村越 智）
- 第27回：NST介入症例の検討（担当：村越 智）
- 第28回：NST介入症例の検討（担当：村越 智）
- 第29回：NST介入症例の検討（担当：村越 智）
- 第30回：NST介入症例の検討（担当：村越 智）

テキスト

担当教員による配布資料など

参考書・参考資料等

特に指定しない

学生に対する評価

授業参加状況50%、各臨床現場の管理栄養士が課した課題50%

授業科目名： 食品機能学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山西倫太郎、向井(山田)友花
			担当形態： オムニバス
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	栄養に係る教育に関する科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>日本をはじめ先進国では、超高齢社会の到来と生活習慣病等の患者の増加、そして、それに伴う医療経費の激増という難題を抱えており、「食と健康」の科学が果たす役割は益々重要になってきている。本科目は、食品成分やその代謝物が生体の健康維持に及ぼす好ましい影響、すなわち“食品の3次機能”について、個体レベル・細胞レベル・分子レベルあるいは遺伝子レベルの視点から学習することを目的とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>1. 保健における食品の機能性を理解するために食品の安全性と有効性の概要について解説し、さらにエビデンスに基づいた各食品や食品群の機能性とその応用について論じる。</p> <p>2. 摂取された食品が生体内でどのように代謝されるか、また遺伝子発現にどのような影響を及ぼすかを解説する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：食品の機能性（担当：山西倫太郎）</p> <p>第2回：アレルギーの予防または抑制に関係する食品成分（1）（担当：山西倫太郎）</p> <p>第3回：アレルギーの予防または抑制に関係する食品成分（2）（担当：山西倫太郎）</p> <p>第4回：アレルギーの予防または抑制に関係する食品成分（3）（担当：山西倫太郎）</p> <p>第5回：アレルギーの予防または抑制に関係する食品成分（4）（担当：山西倫太郎）</p> <p>第6回：アレルギーの予防または抑制に関係する食品成分（5）（担当：山西倫太郎）</p> <p>第7回：アレルギーの予防または抑制に関係する食品成分（6）：補足とまとめ（担当：山西倫太郎）</p> <p>第8回：食品機能性の研究法（1）（担当：向井(山田)友花）</p> <p>第9回：食品機能性の研究法（2）（担当：向井(山田)友花）</p> <p>第10回：食品機能性の研究法（3）（担当：向井(山田)友花）</p> <p>第11回：食品機能性の研究法（4）（担当：向井(山田)友花）</p> <p>第12回：食品機能性の研究法（5）（担当：向井(山田)友花）</p> <p>第13回：生活習慣病の予防に関係する食品機能性（担当：向井(山田)友花）</p> <p>第14回：保健機能食品（担当：向井(山田)友花）</p> <p>第15回：まとめ（担当：山西倫太郎）</p>			

定期試験
テキスト 講義内容に応じて資料等配布
参考書・参考資料等 四訂食品機能学（光生館） 寺尾純二・山西倫太郎・高村仁知 共著 ISBN978-4-332-04066-8
学生に対する評価 講義中の質問に対する回答・受講態度、授業への参加状況、課題発表等を総合的かつ客観的に判断する。

授業科目名： 栄養ケア・マネジメント特論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 鈴木志保子 田中和美 五味(福井)郁子 遠又靖文 駿藤(田中)晶子 堤ちはる 武藤正樹
			担当形態： オムニバス
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	栄養に係る教育に関する科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>栄養ケア・マネジメントの体制の構築・運営に必要となる理論・評価・経営など多角的な視点を養うための授業である。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>【オムニバス方式 全15回】</p> <p>医療・介護・地域保健などの実践活動における栄養ケア・マネジメントの実態を学び、サービスや制度上の課題を主体的に検討することを本授業の主眼とする。前半では、課題把握のための評価の考え方と継続的な品質改善活動に関する基礎的知識を学ぶ。その後、子どもの栄養ケア、給食経営管理、スポーツ栄養、行政における地域栄養活動といった事例について学び、それぞれの分野での特徴や課題について理解を深める。また栄養ケア・マネジメントの運営に必要な医療経営の視点について学び、理解を深める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：栄養ケア・マネジメント序論（担当：遠又靖文）</p> <p>第2回：栄養ケア・マネジメント論（担当：五味(福井)郁子）</p> <p>第3回：子どもの栄養ケア・マネジメント（担当：堤ちはる）</p> <p>第4回：子どもの栄養ケア・マネジメント（担当：堤ちはる）</p> <p>第5回：給食経営管理と栄養ケア・マネジメント（担当：駿藤(田中)晶子）</p> <p>第6回：給食経営管理と栄養ケア・マネジメント（担当：駿藤(田中)晶子）</p> <p>第7回：スポーツ栄養マネジメント（担当：鈴木志保子）</p> <p>第8回：スポーツ栄養マネジメント（担当：鈴木志保子）</p> <p>第9回：行政における栄養ケア・マネジメント（担当：田中和美）</p> <p>第10回：行政における栄養ケア・マネジメント（担当：田中和美）</p> <p>第11回：行政における栄養ケア・マネジメント（担当：田中和美）</p> <p>第12回：栄養ケア・マネジメントに必要なマネジメント（担当：武藤正樹）</p> <p>第13回：栄養ケア・マネジメントに必要なマネジメント（担当：武藤正樹）</p>			

第14回：栄養ケア・マネジメント各論（担当：遠又靖文）

第15回：栄養ケア・マネジメント各論（担当：遠又靖文）

テキスト

担当教員による配布資料など

参考書・参考資料等

特に指定しない

学生に対する評価

レポート90%、出席10%により評価する

授業科目名： 栄養ケア・マネジメント特論演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 田中和美 遠又靖文 片岡沙織 駿藤(田中)晶子 武藤正樹
			担当形態： オムニバス
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	栄養に係る教育に関する科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>栄養管理等の実例を通じて、栄養ケア・マネジメントにおける課題と解決策について検討する能力を養うための演習科目である。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>最終的に、各履修者は栄養ケア・マネジメントにおける課題とその解決策についてレポート作成・発表を行うものとする（第30回）。課題は、特定の分野の具体的な解決案（対策）を提言することに資すると考えられる具体的なものを、自ら履修者ごとに1つずつ設定する。</p> <p>なお第1回授業にて、本授業を通じて検討したいと思う課題について履修者に確認する。</p> <p>第2～24回では、現場訪問やヒヤリング等を通じて、栄養管理や給食経営管理の実例を学ぶ。</p> <p>なおトピックごとに、事前に何を把握したいのかを主体的に検討し、事後に何に役立てられる知見を得ることができたのかについて要点をまとめた小レポートを作成することで、課題意識と理解を深められるようにする。最終的な発表（第30回）では、こうした実例を通じた学びによって、どのような課題を検討すべきと考えたのか、関連づけて発表できることが望ましい。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（担当：遠又靖文、田中和美、片岡沙織）</p> <p>第2回：地域連携の栄養ケア・マネジメントに関わる演習のためのオリエンテーション（担当：田中和美）</p> <p>第3回：地域連携の栄養ケア・マネジメントの現地訪問演習・討議（担当：田中和美）</p> <p>第4回：地域連携の栄養ケア・マネジメントの現地訪問演習・討議（担当：田中和美）</p> <p>第5回：地域連携の栄養ケア・マネジメントの現地訪問演習・討議（担当：田中和美）</p> <p>第6回：レポート作成、発表と討議（担当：田中和美）</p> <p>第7回：地域における身体活動・栄養のための栄養ケア・マネジメントに関わる演習のためのオリエンテーション（担当：片岡沙織）</p> <p>第8回：地域における身体活動・栄養のための栄養ケア・マネジメントの現地訪問演習・討議（担当：片岡沙織）</p> <p>第9回：地域における身体活動・栄養のための栄養ケア・マネジメントの現地訪問演習・討議（担当：片岡沙織）</p>			

<p>:片岡沙織)</p> <p>第10回:地域における身体活動・栄養のための栄養ケア・マネジメントの現地訪問演習・討議 (担当:片岡沙織)</p> <p>第11回:地域における身体活動・栄養のための栄養ケア・マネジメントの現地訪問演習・討議 (担当:片岡沙織)</p> <p>第12回:地域における身体活動・栄養のための栄養ケア・マネジメントの現地訪問演習・討議 (担当:片岡沙織)</p> <p>第13回:レポート作成、発表と討議 (担当:片岡沙織)</p> <p>第14回:地域の医療・介護連携と栄養の課題 (担当:武藤正樹)</p> <p>第15回:地域の医療・介護連携と栄養の課題 (担当:武藤正樹)</p> <p>第16回:レポート作成、発表と討議 (担当:遠又靖文、武藤正樹)</p> <p>第17回:オリエンテーション (担当:駿藤(田中)晶子)</p> <p>第18回:給食経営管理の適正、効率的な運営事例の紹介あるいは現地訪問 (担当:駿藤(田中)晶子)</p> <p>第19回:給食経営管理の適正、効率的な運営事例の紹介あるいは現地訪問 (担当:駿藤(田中)晶子)</p> <p>第20回:給食経営管理の適正、効率的な運営事例の紹介あるいは現地訪問 (担当:駿藤(田中)晶子)</p> <p>第21回:給食経営管理の適正、効率的な運営事例の紹介あるいは現地訪問 (担当:駿藤(田中)晶子)</p> <p>第22回:給食経営管理の適正、効率的な運営事例の紹介あるいは現地訪問 (担当:駿藤(田中)晶子)</p> <p>第23回:給食経営管理の適正、効率的な運営事例の紹介あるいは現地訪問 (担当:駿藤(田中)晶子)</p> <p>第24回:レポート作成、発表と討議 (担当:駿藤(田中)晶子)</p> <p>第25回:オリエンテーション (担当:遠又靖文)</p> <p>第26回:栄養ケア・マネジメントに関する提言に向けた科学的根拠に基づく吟味 (担当:遠又靖文)</p> <p>第27回:栄養ケア・マネジメントに関する提言に向けた科学的根拠に基づく吟味 (担当:遠又靖文)</p> <p>第28回:栄養ケア・マネジメントに関する提言に向けた科学的根拠に基づく吟味 (担当:遠又靖文)</p> <p>第29回:レポート作成、発表と討議 (担当:遠又靖文)</p> <p>第30回:学生発表 (担当:遠又靖文、田中和美、片岡沙織、駿藤(田中)晶子)</p>
<p>テキスト</p> <p>担当教員からの配布資料など</p>
<p>参考書・参考資料等</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>レポート70%、出席30% (討議での発言を含む) により評価する</p>

授業科目名： 栄養ケア・マネジメント実習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 鈴木志保子 田中和美 五味(福井)郁子 駿藤(田中)晶子 遠又靖丈
			担当形態： オムニバス
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	栄養に係る教育に関する科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>ヒューマンサービスのミッションに基づいた高度な栄養専門職としての栄養ケア・マネジメントを構築・推進するための実践能力を養う。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>行政機関、病院(栄養サポートチームを含める)、施設、地域等における栄養ケア・マネジメントに関する体制づくり、運営・実践活動や評価、地域栄養活動(訪問栄養活動、保健指導を含める)、スポーツ・マネジメント、学校における栄養教育マネジメント等の実践活動を、学生個々のニーズにマッチングした実習施設において行う。</p> <p>実習領域により科目責任者(スポーツ、学校)の他、田中和美(行政、地域)・五味(福井)郁子(病院、施設、保健指導)・駿藤(田中)晶子(給食)、遠又靖丈(行政、地域)が実習先との調整を担当する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>学生別に実習施設、教員と調整のうえ、授業計画を立て、90時間実習を行う。</p> <p>第1回：事前指導(1)：オリエンテーション(担当：各実習領域の教員)</p> <p>第2回：事前指導(2)：各実習領域に関する事前学習(担当：各実習領域の教員)</p> <p>第3回：事前指導(3)：各領域を想定した模擬実習(担当：各実習領域の教員)</p> <p>第4回：事前指導(4)：各領域を想定した模擬実習(担当：各実習領域の教員)</p> <p>第5回：事前指導(5)：各実習施設に関する事前学習(担当：各実習領域の教員)</p> <p>第6回：事前指導(6)：各実習施設の事前課題学習(担当：各実習領域の教員)</p> <p>第7回～第18回：各実習施設における実習</p> <p>第19回：事後学習(1)：実習のまとめ(担当：各実習領域の教員)</p> <p>第20回：事後学習(2)：報告会準備(担当：各実習領域の教員)</p> <p>第21回：事後学習(3)：報告会(担当：各実習領域の教員)</p> <p>第22回：事後学習(4)：報告会(担当：各実習領域の教員)</p> <p>第23回：事後学習(5)：ディスカッション(担当：各実習領域の教員)</p> <p>第24回：事後学習(6)：レポート作成・提出(担当：各実習領域の教員)</p>			

テキスト

学生ごとに異なるため、別途指定する。

参考書・参考資料等

学生ごとに異なるため、別途指定する。

学生に対する評価

1) 課題レポート 2) 出席状況

授業科目名： 栄養実践活動調査研究 特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 鈴木志保子 遠又靖丈 駿藤(田中)晶子 飯田綾香 樋口良子 片岡沙織 中西朋子
			担当形態： オムニバス
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	栄養に係る教育に関する科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>栄養ケア・マネジメント(栄養教育を含める)に関する調査研究手法について論述する。</p> <p>管理栄養士が携わるライフステージ別の対象者やスポーツなどの特殊環境などの現場における調査研究手法について習得させる。</p> <p>臨床事象の問題点・定式化や情報収集の手法を習得させ、科学的根拠を導き出すために必要な疫学調査法や統計手法について講義を行なう。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>医療・福祉・保健サービス及びスポーツなどのさまざまな現場における管理栄養士の実践活動に寄与するエビデンスづくりのための調査研究手法について学習する。</p> <p>テーマについて予習・復習する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：生活習慣と食生活に関する調査研究手法（担当：鈴木志保子）</p> <p>第2回：競技選手に関する調査研究手法（担当鈴木志保子）</p> <p>第3回：給食経営管理に関する調査研究手法Ⅰ（担当：駿藤(田中)晶子）</p> <p>第4回：給食経営管理に関する調査研究手法Ⅰ（担当：駿藤(田中)晶子）</p> <p>第5回：疫学に関する調査研究手法1（担当：遠又靖丈）</p> <p>第6回：疫学に関する調査研究手法2（担当：遠又靖丈）</p> <p>第7回：疫学に関する調査研究手法3（担当：遠又靖丈）</p> <p>第8回：児童福祉分野における食生活に関する調査研究手法(1)（担当：樋口良子）</p> <p>第9回：児童福祉分野における食生活に関する調査研究手法(2)（担当：樋口良子）</p> <p>第10回：病態と栄養に関する基礎研究手法(1)（担当：飯田綾香）</p> <p>第11回：病態と栄養に関する基礎研究手法(2)（担当飯田綾香）</p> <p>第12回：競技選手に関する調査研究手法(1)（担当：片岡沙織）</p> <p>第13回：競技選手に関する調査研究手法(2)（担当：片岡沙織）</p> <p>第14回：睡眠についての基礎知識（担当：中西朋子）</p>			

第15回：睡眠と栄養の関係 (担当: 中西朋子)

テキスト

授業の時に配布する。あるいは事前に資料を配布する。

参考書・参考資料等

特に指定しない

学生に対する評価

レポート等により評価を行う。

授業科目名： 栄養実践活動調査研究 特論演習	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 鈴木志保子 向井(山田)友花 駿藤(田中)晶子 樋口良子 飯田綾香 片岡沙織 中西朋子
			担当形態： オムニバス
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	栄養に係る教育に関する科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>管理栄養士が栄養実践活動する際に必要な基礎医学的知識の基になっている論文等を抄読・考察する。</p> <p>栄養ケア・マネジメント(栄養教育を含める)に関する調査研究手法について、先行調研究論文等を抄読して討議する。</p> <p>管理栄養士が携わるさまざまな現場における課題や効果を調査研究として引き上げるための手法について論文の抄読・考察から演習する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>管理栄養士の栄養実践活動に寄与するエビデンスを提示した論文等の抄読を行い、調査研究手法について演習する。</p> <p>テーマについて予習・復習する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：スポーツ栄養マネジメントの研究手法（担当：鈴木志保子）</p> <p>第2回：スポーツ栄養マネジメントの研究手法（担当：鈴木志保子）</p> <p>第3回：妊娠期栄養が母体と児の健康に及ぼす影響（担当：向井(山田)友花）</p> <p>第4回：妊娠期栄養が母体と児の健康に及ぼす影響（担当：向井(山田)友花）</p> <p>第5回：フードマネジメントの現状分析と課題の把握（担当：駿藤(田中)晶子）</p> <p>第6回：フードマネジメントの現状分析と課題の把握（担当：駿藤(田中)晶子）</p> <p>第7回：フードマネジメントの現状分析と課題の把握（担当：駿藤(田中)晶子）</p> <p>第8回：SDGsの観点からみたフードサービスの課題の把握(1)（担当：駿藤(田中)晶子）</p> <p>第9回：SDGsの観点からみたフードサービスの課題の把握(2)（担当：駿藤(田中)晶子）</p> <p>第10回：SDGsの観点からみたフードサービスの課題の把握(3)（担当：駿藤(田中)晶子）</p> <p>第11回：児童福祉分野における課題の把握(1)（担当：樋口良子）</p> <p>第12回：児童福祉分野における課題の把握(2)（担当：樋口良子）</p> <p>第13回：児童福祉分野における課題の把握(3)（担当：樋口良子）</p>			

- 第14回：特定健診・特定保健指導に関する現状分析と課題の把握(1) (担当: 樋口良子)
- 第15回：特定健診・特定保健指導に関する現状分析と課題の把握(2) (担当: 樋口良子)
- 第16回：特定健診・特定保健指導に関する現状分析と課題の把握(3) (担当: 樋口良子)
- 第17回：病態と経腸栄養剤の基礎(1) (担当: 飯田綾香)
- 第18回：病態と経腸栄養剤の基礎(2) (担当: 飯田綾香)
- 第19回：病態と経腸栄養剤の基礎(3) (担当: 飯田綾香)
- 第20回：病態と経腸栄養剤の基礎(4) (担当: 飯田綾香)
- 第21回：児童生徒の食育(1) (担当: 飯田綾香)
- 第22回：児童生徒の食育(2) (担当: 飯田綾香)
- 第23回：競技選手と栄養に関する研究の把握(1) (担当: 片岡沙織)
- 第24回：競技選手と栄養に関する研究の把握(2) (担当: 片岡沙織)
- 第25回：競技選手と栄養に関する研究の把握(3) (担当: 片岡沙織)
- 第26回：競技選手と栄養に関する研究の把握(4) (担当: 片岡沙織)
- 第27回：競技選手と栄養に関する研究の把握(5) (担当: 片岡沙織)
- 第28回：競技選手と栄養に関する研究の把握(6) (担当: 片岡沙織)
- 第29回：睡眠に関する最新情報 (1) (担当: 中西朋子)
- 第30回：睡眠に関する最新情報 (2) (担当: 中西朋子)

テキスト

授業の時に配布する。あるいは、事前に資料を配布する。

参考書・参考資料等

特に指定しない

学生に対する評価

出席、レポートを評価する。

授業科目名： 学校栄養教育特論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 飯田綾香、鈴木志保子
			担当形態： オムニバス
科 目	大学が独自に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	栄養に係る教育に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 教育現場における保健医療福祉職としての栄養教諭の役割と資質能力の向上の必要性について理解する			
2. 食に関する指導の実践事例を通して課題の抽出及び改善策について議論することができる			
授業の概要			
第1～3回は、児童生徒の栄養・食に関する課題を解決するための栄養教諭の役割や資質能力について理解を深める。			
第4～15回は食に関する指導のうち、教科等における食に関する指導及び食に関する個別的な相談指導について、具体的な実践事例をまとめ、プレゼンテーションを行い、課題と改善策を履修者と相互に検討する。			
授業計画			
第1回：現代社会における児童生徒の栄養・食に関する課題について議論する（担当：飯田綾香）			
第2回：栄養教諭に求められる役割について理解を深め、資質能力の向上について議論する（担当：鈴木志保子）			
第3回：食に関する指導と学校給食管理の一体的な展開と業務遂行のインフラとしてのICTの活用について議論する（担当：飯田綾香）			
第4回：教科等における食に関する指導の実践事例に関する検討（担当：飯田綾香）			
第5回：教科等における食に関する指導の実践事例に関する検討（担当：飯田綾香）			
第6回：教科等における食に関する指導の実践事例に関する検討（担当：飯田綾香）			
第7回：教科等における食に関する指導の実践事例に関する検討（担当：飯田綾香）			
第8回：学生発表と討議（担当：飯田綾香 鈴木志保子）			
第9回：栄養・食に関する課題のある児童生徒に対する個別的な相談指導についての理解を深める（担当：飯田綾香）			
第10回：食に関する個別的な相談指導の実践事例に関する検討（担当：飯田綾香）			
第11回：食に関する個別的な相談指導の実践事例に関する検討（担当：飯田綾香）			
第12回：食に関する個別的な相談指導の実践事例に関する検討（担当：飯田綾香）			
第13回：食に関する個別的な相談指導の実践事例に関する検討（担当：飯田綾香）			
第14回：学生発表と討議（担当：飯田綾香 鈴木志保子）			

第15回：学生発表と討議、まとめ（担当：飯田綾香 鈴木志保子）

テキスト

教員が適宜配布する

参考書・参考資料等

文部科学省：食に関する指導の手引－第二次改訂版－、文部科学省栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育

学生に対する評価

授業参加状況30%、食に関する指導の実践事例に関する検討・発表70%

授業科目名： 教育方法論概説	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 深沢和彦 高橋佐和子 飯田綾香
			担当形態： オムニバス
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の基礎的理解に関する科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>教育方法についての基礎的な内容について実践的な場面とつなげて理解している。具体的には次の3つを到達目標とする。</p> <p>(1) 現代の教育に影響を与えている教育方法や教育評価について理解できる。</p> <p>(2) これからの教育がめざそうとしている理念について、その社会的背景とともに必要となる教育方法について理解できる。</p> <p>(3) 教育現場における具体的な教育実践方法について理解できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>現代の教育に影響を与えている教育方法とその変遷、および、これからの教育がめざす理念とその実現のための教育方法について解説する。さらに、保健教育、栄養教育の現場における具体的な教育実践について解説する。授業の展開では、小グループを設定し、グループディスカッション、グループラーニングの機会を設け、受講者自身がそれぞれの教育方法体験する中で、実践的な理解を深めさせたい。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス、学びの本質（担当：深沢和彦）</p> <p>第2回：教育方法の変遷（1）（担当：深沢和彦）</p> <p>第3回：教育方法の変遷（2）（担当：深沢和彦）</p> <p>第4回：教育評価（担当：深沢和彦）</p> <p>第5回：これからの教育がめざすもの（担当：深沢和彦）</p> <p>第6回：主体的な学びをつくるには（担当：深沢和彦）</p> <p>第7回：対話的で深い学びをつくるには（担当：深沢和彦）</p> <p>第8回：情報リテラシーとICTの利活用（担当：深沢和彦）</p> <p>第9回：専門性を磨く（担当：深沢和彦）</p> <p>第10回：共生社会とインクルーシブ教育システム（担当：高橋佐和子）</p> <p>第11回：学校経営（担当：高橋佐和子）</p> <p>第12回：認知特性（担当：飯田綾香）</p>			

第13回：健康教育(1) (担当：高橋佐和子)

第14回：健康教育(2) (担当：飯田綾香)

第15回：多職種連携(担当：飯田綾香)

テキスト

講義や演習の際、各教員から資料を配付する。

参考書・参考資料等

新しい時代の教育方法改訂版（有斐閣アルマ）田中耕治・鶴田清司ほかアクティブラーニングを成功させる学級づくり（誠信書房）河村茂雄

学生に対する評価

レポート（40%）、毎授業後のリアクションペーパーの提出（40%）、授業態度（20%）で評価する

授業科目名： 養護・栄養教諭連携論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高橋佐和子 飯田綾香
			担当形態： オムニバス
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の基礎的理解に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>児童生徒の心身の健やかな成長のために養護教諭と栄養教諭の連携及び協働について理解を深め、各専門性を十分に発揮するために、校内体制や個別的な相談指導の課題や解決策を検討する能力を養うことを目的とする。</p>			
授業の概要			
<p>第1～3回は、児童生徒の心身の健やかな成長のために必要な養護教諭と栄養教諭の役割について理解を深める。</p> <p>第4～8回は、学校保健活動及び食育推進のための校内体制整備について検討し、具体的な事例をまとめ、プレゼンテーションを行い、課題と解決策を履修者と相互に検討する。</p> <p>第9～15回は、各専門性を生かした効果的な個別的な相談指導について、具体的な実践事例をまとめ、プレゼンテーションを行い、課題と改善策を履修者と相互に検討する。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション（担当：飯田綾香 高橋佐和子）			
第2回：栄養教諭の役割（担当：飯田綾香）			
第3回：養護教諭の役割（担当：高橋佐和子）			
第4回：児童生徒の健康問題解決に向けた校内体制整備（担当：飯田綾香 高橋佐和子）			
第5回：養護・栄養教諭の連携：校内体制整備(1)（担当：飯田綾香 高橋佐和子）			
第6回：養護・栄養教諭の連携：校内体制整備(2)（担当：飯田綾香 高橋佐和子）			
第7回：養護・栄養教諭の連携：校内体制整備(3)（担当：飯田綾香 高橋佐和子）			
第8回：学生発表と討議（担当：飯田綾香 高橋佐和子）			
第9回：養護・栄養教諭の連携：個別的な相談指導(1)（担当：飯田綾香 高橋佐和子）			
第10回：養護・栄養教諭の連携：個別的な相談指導(2)（担当：飯田綾香 高橋佐和子）			
第11回：養護・栄養教諭の連携：個別的な相談指導(3)（担当：飯田綾香 高橋佐和子）			
第12回：養護・栄養教諭の連携：個別的な相談指導(4)（担当：飯田綾香 高橋佐和子）			
第13回：養護・栄養教諭の連携：個別的な相談指導(5)（担当：飯田綾香 高橋佐和子）			
第14回：学生発表と討議(1)（担当：飯田綾香 高橋佐和子）			
第15回：学生発表と討議(2)（担当：飯田綾香 高橋佐和子）			

テキスト 教員が適宜資料を配布する
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 授業参加状況30%、実践事例に関する検討・発表70%

授業科目名： コンサルテーション論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 生田倫子 渡邊千登世
			担当形態： オムニバス
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の基礎的理解に関する科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>コンサルテーションは、ある特定の事柄についての専門家であるコンサルタントが、その事柄についての非専門家（コンサルティ）から実際的な問題について相談を受け、その状況を改善するために、コンサルティの知識・技術を助長するよう側面的援助を行うことである。</p> <p>コンサルテーションは、高度専門職者として多職種協働や連携を行う際に必要な概念であり、身につける必要がある知識・技術の一つである。</p> <p>コンサルテーションはコンサルタントとコンサルティがともに「問題の明確化」と「問題解決」に向かう、対等な相互関係のプロセスである。このコンサルテーションの基本概念を踏まえ、コンサルテーションに活用する理論や技法を学ぶ。</p> <p>また、多様な高度専門職者から多職種間におけるコンサルテーション活動の実際について学び、ロールプレイングを行うことにより、コンサルタントおよびコンサルティの役割を体験から学ぶ。</p>			
<p>授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンサルテーションの基本概念、コンサルテーションに活用する理論と技法、コンサルテーションの実際を学ぶ。 ・連携や協働に必要な実践スキルについてロールプレイングや討議を通して学ぶ。 ・ロールプレイングでは、実際に自分が経験した事例（例えば、管理栄養士が栄養指導で困難を感じた事例や教育担当看護師が新人看護師指導で困難を感じた事例など）を用いて、コンサルタントとコンサルティを経験し、相談する者と相談される者の立場を客観視しながら、コンサルテーションの能力を学ぶ。相談事例については、問題状況の概要をまとめ事前に提出する。 			
<p>授業計画</p> <p>第1回：コンサルテーションの基本概念(担当：生田倫子 渡邊千登世)</p> <p>第2回：コンサルテーションプロセス(担当：生田倫子 渡邊千登世)</p> <p>第3回：コンサルテーションに必要な能力(担当：生田倫子 渡邊千登世)</p> <p>第4回：専門看護師や認定看護師の役割とコンサルテーション活動(担当：生田倫子 渡邊千登世)</p> <p>第5回：栄養サポートチームにおけるコンサルテーション活動の実際 (1) (担当：生田倫子 GS)</p> <p>第6回：栄養サポートチームにおけるコンサルテーション活動の実際 (2)</p>			

(担当：生田倫子 GS)

第7回：家族看護専門看護師の役割とコンサルテーション活動の実際 (1) (担当：生田倫子 GS)

第8回：家族支援専門看護師の役割とコンサルテーション活動の実際 (2) (担当：生田倫子 GS)

第9回：精神看護専門看護師の役割とコンサルテーションの実際 (1) (担当：生田倫子 GS)

第10回：精神看護専門看護師の役割とコンサルテーションの実際 (2) (担当：生田倫子 GS)

第11回：ブリーフセラピーを用いたコンサルテーションの実際 (1) (担当：生田倫子)

第12回：ブリーフセラピーを用いたコンサルテーションの実際 (2) (担当：生田倫子)

第13回：コンサルテーションの実際 (1) (担当：生田倫子)

第14回：コンサルテーションの実際 (2) (担当：生田倫子)

第15回：コンサルテーションの実際 (3) (担当：生田倫子)

テキスト

講義や演習の際、各教員から資料を配付する。

参考書・参考資料等

・ E・H・シャイン. (2012). プロセスコンサルテーション—援助関係を築くこと. 白桃書房. (ISBN978-4-5611-3140-3).

・ 生田倫子 (2011) : ブリーフセラピーで切り抜ける 対人トラブル即解決法. 日総研出版. (ISBN978-4-7760-1541-3)

・ パトリシア・R・アンダーウッド(2003) : 看護理論の臨床活用, 日本看護協会出版会. (ISBN 978-4-8180-1014-7)

その他講義時に紹介する

学生に対する評価

レポート60%とロールプレイングの事前課題と討議プロセス40%

授業科目名： 研究法Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：城川美佳 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の基礎的理解に関する科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学校教育の分野において、保健医療福祉の領域との連携が必要なものの1つに学校保健教育がある。学校保健教育の実践の質向上につなげるには、ア) 保健医療福祉の研究を遂行するものに必要な知識、態度、技術、根拠に基づく分析能力の獲得とともに、イ) 国内外を見据えた学校保健教育の潮流を把握する必要がある。</p> <p>本講座では、保健医療福祉における科学的研究の種類と特徴について学ぶ。また日本が提唱したSDGsを踏まえた教育の考え方（持続可能な開発のための教育＜Education for Sustainable Development：ESD＞）、および学校保健教育での課題やそれに関連した研究について国内外で発表されている論文等を用いて概説する。なお、初年度では、栄養不良の二重負荷、DOHaD仮説と将来のNCD（生活習慣病）、防災教育をトピックスとして用いる。</p>			
<p>授業の概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療福祉分野の実践における研究の重要性について学ぶ 2. 研究に先立つ疑問点の抽出、研究命題と研究デザインの立案について学ぶ 3. 量的研究における疫学手法について学ぶ 4. 研究計画を立てる際に必要な点について学ぶ 5. 持続可能な開発のための教育（Education for Sustainable Development：ESD）の概要について学ぶ 6. 学校保健領域において注目されている課題を学ぶ 7. 学校保健領域での課題に関する先行研究から、研究手法を理解する 9. 先行研究（論文）の研究デザインを批判的に吟味する 			
<p>授業計画</p> <p>第1回：研究倫理講習会(担当：研究倫理委員会)</p> <p>第2回：研究法Ⅲ総論 研究倫理（担当：城川美佳）</p> <p>第3回：研究テーマの設定（担当：城川美佳）</p> <p>第4回：文献検索方法(担当：図書館司書)</p> <p>第5回：研究における仮説と研究デザイン（担当：城川美佳）</p> <p>第6回：研究計画の作成（担当：城川美佳）</p> <p>第7回：疫学手法を用いたデータ解析（担当：城川美佳）</p> <p>第8回：持続可能な開発のための教育（Education for Sustainable Development：ESD）（担当：城川美佳）</p>			

第9回：学校保健分野で注目されている課題1：栄養不良の二重負荷 a（担当：城川美佳）
第10回：学校保健分野で注目されている課題1：栄養不良の二重負荷 b（担当：城川美佳）
第11回：学校保健分野で注目されている課題2：DOHaD仮説と将来のNCD a（担当：城川美佳）
第12回：学校保健分野で注目されている課題2：DOHaD仮説と将来のNCD b（担当：城川美佳）
第13回：学校保健分野で注目されている課題3：防災教育 a（担当：城川美佳）
第14回：学校保健分野で注目されている課題3：防災教育 b（担当：城川美佳）
第15回：まとめ（担当：城川美佳）

テキスト

講義内で適宜提示する

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

レポート 100%

「授業終了時の達成課題(到達目標)」をレポートの評価基準とする。

授業科目名： 研究法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 城川美佳 川名るり 西名諒平
			担当形態： オムニバス
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の基礎的理解に関する科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>看護・栄養・社会福祉・リハビリテーション領域の研究におけるデータの理解と解析および統計学的解析法の詳細例を演習する。さらに、各領域の研究に関する各種のデータの統計的解析と結果の解釈、研究・試験計画の適切さについて演習し、実践場面の課題解決にむけての方略を考察する（城川）。</p> <p>看護・栄養・社会福祉・リハビリテーション領域における質的研究法の意義やその特徴を理解する。さらに、質的なデータ収集や分析のプロセスを理解し、事例研究をもとに、実践における課題に対して質的研究だからこそ深化させることが可能な現象の理解を体験する（川名・西名）。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>1. 看護・栄養・社会福祉・リハビリテーション領域の研究データをPCを用いて推定することを学ぶ。具体的には、研究疑問に答えるために、正規分布する変数を代表する値の検定、正規分布しない変数間の検定、変数の分布比率による独自性の検討、変数間の相関分析や回帰分析、多変量解析手法についてPCを利用して検討する方法を学ぶ。</p> <p>2. 看護・栄養・社会福祉・リハビリテーション領域における質的研究の意味と特徴を理解する。事例研究をもとに質的研究のデータ収集とその分析について学び、自己の実践場面における現象の理解を深める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：質的研究 総論(担当：川名るり)</p> <p>第2回：質的研究方法の進め方①(担当：川名るり)</p> <p>第3回：質的研究方法の進め方②データ収集法-1(担当：川名るり)</p> <p>第4回：質的研究方法の進め方③データ収集法-2(担当：川名るり)</p> <p>第5回：質的研究方法の進め方④データ分析法-1(担当：西名諒平)</p> <p>第6回：質的研究方法の進め方⑤データ分析法-2(担当：西名諒平)</p> <p>第7回：質的研究方法の進め方⑥データ分析法-3(担当：西名諒平)</p> <p>第8回：質的研究方法のまとめ(担当：川名るり・西名諒平)</p> <p>第9回：量的研究 総論1(担当：城川美佳)</p> <p>第10回：量的研究 総論2(担当：城川美佳)</p>			

第11回：データの把握(担当：城川美佳)

第12回：データの検定(担当：城川美佳)

第13回：単変量解析1(担当：城川美佳)

第14回：単変量解析2(担当：城川美佳)

第15回：単変量解析3(担当：城川美佳)

第16回：多変量解析(担当：城川美佳)

定期試験

テキスト

なし

参考書・参考資料等

柳井晴夫・緒方祐光編著『SPSSによる統計データ解析』

学生に対する評価

レポート100%